

平成28年度 特別活動にかかわる現状と課題

部長 島田 芳樹

1 特別活動の動向

17地区から寄せられた取組状況を内容別に概観してみる。

(1) 研究主題

多くの地区が「望ましい集団活動を通して、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる（指導要領特別活動目標前段部分）」ことに焦点をあてた研究主題を立てている。

特徴的な2地区の研究主題を紹介する。

魚沼市：「親和的な学級作りへの挑戦～温かい学級づくり支援事業（3年次）を通して～」

新潟市：「深まる話し合い活動を生む学級活動を目指して」

(2) 研修実施回数

年間1回～7回と地域によって幅がある。児童の実態やその他各地区の実情に応じた回数となっているものと考えられる。

(3) 研修会場

多くは小学校あるいは中学校で行っている。加茂市は、市役所の会議室を会場に実践を持ち寄った演習を実施している。見附市は、大平森林公園でEボートによる体験活動を行っているのが特徴的である。

(4) 内容

講演会あるいは講義が9地区、授業研究が10地区、レポート持ち寄り等による実践交流が6地区、体験活動が1地区となっている。授業研究を行った地区の半数は事前に指導案検討会を実施している。

(5) 指導者・講師

各地区多様な指導者・講師を招いている。8地区で小中学校教諭・教頭・校長を、5地区で大学教授・講師を招へいしている（そのうち3地区は高崎経済大学の橋本定男先生）。その他に、青少年自然の家所長、県立教育センター指導主事、新潟市教育センター指導主事、新潟市西蒲区教育支援センター所長を招へいしている地区がある。長岡・三島では臨床心理士を招いて講演会を実施している。見附市では公園管理者を講師として体験活動を行っている。

2 課題

- ・ 地区によっては担任以外の部員が多く、研修内容や進め方に課題のある地域がある。研修内容や講師選定の仕方に関しては、他地域の実績を参考にしたい。
- ・ 魚沼市では、親和的な学級作りの取組により「学習の基盤となる学級集団の機能を高められたことにより、児童の意欲や構えが高まった」としている。特別活動の重要性を再認識し、豊かな人間性や社会性、自律性を備えた児童を育てることを目指し、今後も取組を続けていきたい。